

目

次

1	説明文の読解① 文のつながりをつかむ (かなづかい)	4
2	説明文の読解② 文のつながりをつかむ (送りがない)	10
3	詩の鑑賞① 韻文の表現をつかむ (漢字の画数)	16
4	詩の鑑賞② 韻文の表現をつかむ (漢字の筆順)	22
5	物語の読解① 展開をつかむ (漢字の部首)	28
6	物語の読解② 展開をつかむ (漢字の成り立ち)	34
7	随筆の読解① 文章の話題をつかむ (音読みと訓読み①)	40
8	随筆の読解② 文章の話題をつかむ (音読みと訓読み②)	46
9	物語の読解③ 場面をつかむ (同音異義語・同訓異義語)	52

10	物語の読解④ 場面をつかむ (熟語の組み立て)	58
11	説明文の読解③ 段落構成をつかむ (三字熟語)	64
12	説明文の読解④ 段落構成をつかむ (四字熟語)	70
13	説明文の読解⑤ 段落構成をつかむ (類義語)	76
14	随筆の読解③ 事実と意見を読み分ける (対義語)	82
15	随筆の読解④ 事実と意見を読み分ける (主語・述語)	88
16	随筆の読解⑤ 事実と意見を読み分ける (修飾語)	94
17	物語の読解⑤ 人物の心情や性格をつかむ (文の種類)	100
18	物語の読解⑥ 人物の心情や性格をつかむ (慣用句①)	106

19	物語の読解⑦	人物の心情や性格をつかむ (慣用句②)	112
20	説明文の読解⑥	要点をつかむ (ことわざ①)	118
21	説明文の読解⑦	要点をつかむ (ことわざ②)	124
22	随筆の読解⑥	要点をつかむ (文学史)	130
23	随筆の読解⑦	要点をつかむ (ことばの種類・働き)	136
24	伝記の読解	伝記を読み、人物像をつかむ (敬語)	142
25	脚本の読解	脚本を読み、場面展開をつかむ (手紙の書き方)	148
26	詩の鑑賞③	表現の意図をつかむ (漢字・熟語の復習①)	154
27	説明文の読解⑧	筆者の主張をつかむ (漢字・熟語の復習②)	160
28	説明文の読解⑨	筆者の主張をつかむ (漢字・熟語の復習③)	166

29	説明文の読解⑩	筆者の主張をつかむ (ことばの復習①)	172
30	物語の読解⑧	文章の主題をつかむ (ことばの復習②)	178

●	小学五年生 配当漢字	184
---	------------	-----



付録

17

物語の読解⑤

— 人物の心情や性格をつかむ —

文の種類

学習日

解法の解説

物語などの登場人物の心の動きを心情といいます。心情の読み取りでは次のようなことを手がかりにしましょう。

① 人物の心情が直接書かれている部分から読み取る。

例 「楽しい」「泣く」「いらだつ」

② 人物の行動、動作、表情、会話などから読み取る。

例 「息をのむ」↓おどろき／「むねが高鳴る」↓期待

③ 情景から読み取る。

例 「さわやかな青空」↓晴れ晴れとした気持ち

「どんよりとくもった空」↓すっきりしない気持ち。

また、物語などでは、登場人物の性格を考え、その人物像をきちんととらえましょう。登場人物の性格をつかむためには、次のような点に着目しましょう。

○ 人物の性格を直接表していることば。

例 「兄は短気でよくけんかになる。」

「父は、まじめできびしい人だ。」

○ 人物の性格が表れた会話や行動。

例 「妹は、こまったことがあると、すぐに他人にたよる。」

「先生は、服が多少よごれていても気にしない人だ。」

○ その人物に対する周囲の態度。

例 「姉は、みんなからたよりにされている。」

「イワンの言うことはだれも信じない。」

確認問題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

—

(注) すみれはわかばの母親。

〈まはら三桃「つる子さんからの奨学金」より〉

□(1) — 線①「麻耶は投げつけるように言い、教室から出ていってしまった」とありますが、このときの麻耶の様子として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の成績が下がって落ちこんでいたところに、成績が上がったことを喜ぶわかばのすがたを見せられて気を悪くしている。

イ 自分の成績が上がったことを素直に喜んでいるわかばを見て、いつか逆転されてしまうのではないかとおそれている。

ウ 成績が上がったことを喜んでいてわかばを見て自分もうれしく思う一方で、少しうらやましい気持ちにもなっている。

工 自分より成績が下だったはずのわかばに逆転されたことを知り、次は負けまいと競争心をかきたてられている。

□(2) 線②「期待」とは、どのような期待ですか。本文中のことはを用いて書いて答えなさい。

--	--

□(3) 線③「麻耶のようす」とありますが、わかばより自分の成績が下だとわかったときの「麻耶のようす」がえがかれている部分を本文中から十五字以上二十字以内でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

--	--

□(4) 線④「逆の立場」とありますが、それは具体的にどのような状況ですか。次の文の①、②に入る最もふさわしいことを、①は八字、②は九字で本文中から書きぬいて答えなさい。
へわかばが、自分に比べて ① 麻耶に、② という状況。〽

②	①

□(5) 線⑤「みぞおちがしぼられたようになって、心が激しく波打った」とありますが、それはどのような気持ちですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 麻耶に対して優位に立とうとした自分の行動が原因で、二人の關係がこわれてしまったことを気に病む気持ち。

イ 自分の無邪気なふるまいが、麻耶をどれほど嫌な気持ちにさせたのかに気づいてくやむ気持ち。

ウ 麻耶よりも成績が上になってしまったことで、麻耶を傷つけたことをもうしわけなく思う気持ち。

エ 麻耶が嫌な気持ちになることをわかっていながら、成績を自慢してしまった自分を反省する気持ち。

□(6) 線⑥「あまり深く考えたことはなかった」とありますが、それはなぜですか。理由が書かれている部分を本文中から三十五字でさがし、その最初と最後の五字を書きぬいて答えなさい。

--	--

□(7) 線⑦「自分の気持ちが変化している」とありますが、どう変化しているのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

ア 他人と成績を競い合うのではなく、ともに努力していこうとする気持ちへと変化している。

イ 自分の成績にしっかりと向き合って、向上していききたいという気持ちへと変化している。

ウ 自分の成績を気にすることなく、ただ前向きに勉強しているという気持ちへと変化している。

エ 自分の成績にすっかり満足して、ゆとりを持って学業に取り組んでいこうという気持ちへと変化している。

② 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



〈三浦しをん「エレジーは流れない」より〉

(注) 心平は怜たちの共通の友人。

デッサンに色を使わずに線だけでえがくこと。
 鷹揚に小さなことにこだわらず、おおらかなこと。
 暗紫の波濤に暗いむらさき色の大きな波。

□(1) ——— 線①「心平が美大受けることにした」とありますが、そのきっかけになったことを、本文中から十三字で書きぬいて答えなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--

□(2) ——— 線②「丸山はあくまでも鷹揚である」とありますが、このときの丸山の様子として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どうせ心平は美大受験をあきらめるだと予想している。
- イ 心平がどの大学を目指そうと関係がないとつき放している。
- ウ 心平が美大に行けることを信じているふりをしている。
- エ 心平の素質を考えると美大受験も無茶ではないと感じている。

□(3) ——— 線③「怜はおずおずと尋ねた」とありますが、怜はなぜ「おずおず」とした様子だったのですか。次から最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。

- ア 丸山をこれ以上おこらせてしまうことを心配したから。
- イ 自分が見当ちがちな質問をしているように思えたから。
- ウ 丸山が自分の質問に答えてくれないことをおそれたから。
- エ 自分は丸山が答えにくいことを聞いている気がしたから。

□(4) ——— 線④「丸山が出品した絵が思い浮かんだ」とありますが、その絵に対する怜の印象は、以前と今とでどう変化しましたか。次の文の□①、□②に入る最もふさわしいことばを、①は三字、②は六字で本文中から書きぬいて答えなさい。
 〈以前は丸山が□①を切り開いた絵だと思ったが、今は丸山の□②を表していた絵ではないかと思うようになった。〉

□①							
□②							

□(5) ——— 線「俺さ、自分がいやになったよ」とありますが、これはどういうことを言っているのですか。本文中のことばを用いて書いて答えなさい。

--

□(6) 丸山の人物像として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分にきちんと向き合える実直な人物。
- イ 自分に自信が持てない向上心に欠けた人物。
- ウ 自分の非をみとめようとしない強情な人物。
- エ 人の気持ちを考えない自分本位な人物。

つばめの学習

ポイント

《文の種類》

文の主語・述語の関係は、次の三つに分類することができます。特に述語の働きに注意して区別できるようにしましょう。

① 「何が どうする」(述語が物事の動作・作用などを表す)

例 「犬が走る。」「父はカレーを食べる。」

② 「何が どんなんだ」(述語が物事の性質や状態などを表す)

例 「教室が広い。」「森は静かだ。」

③ 「何が 何だ」(述語が物事の名前を表す)

例 「たん生日は五月六日だ。」「妹は小学生です。」

また、文は、その構造の上から、**単文・複文・重文**の三つに分けることができます。

① **単文**(文中に主語・述語の関係が一つだけある文)

例 「兄が本を読む。」(主語・述語の関係は「兄が―読む」)

② **複文**(主語・述語の関係が二つ以上あり、一方が他方にしたがっている文)

例 「弟が生まれたのは、十月四日だ。」(主語・述語の関係は「弟が―生まれた」と「生まれたのは―十月四日だ」)

③ **重文**(主語・述語の関係が二つ以上あり、それらが対等にならないでいる文)

例 「兄は駅へ向かい、弟は家へ帰った。」(主語・述語の関係は「兄は―向かい」と「弟は―帰った」)

問題

次のそれぞれの文は、「単文」「複文」「重文」のうちのどれにあたりますか。また、文全体の主語・述語の関係は、「何が どうする」「何が どんなんだ」「何が 何だ」のうちのどの形にあてはまりますか。それぞれ書いて答えなさい。

□(1) 秋の野原にさくコスモスの花は美しい。

□(2) ぼくは電車を使い、友人はバスを使った。

□(3) 三月が終わると、ぼくは小学六年生だ。

□(4) つばめはあたたかい南の国へ飛んでいく。

□(4) つばめはあたたかい南の国へ飛んでいく。